

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

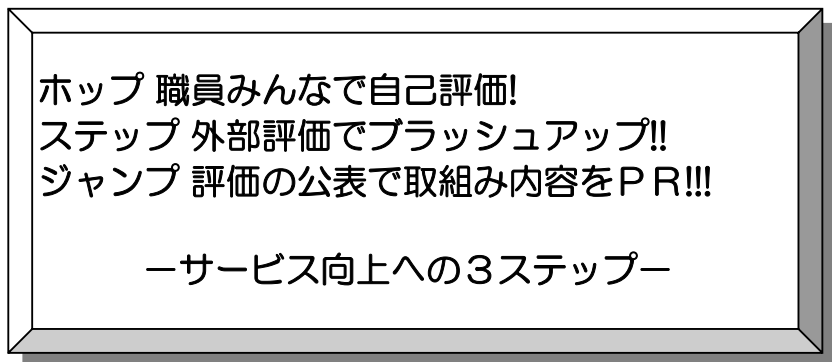
I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制



【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3年 10月 28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3873800373
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
(ユニット名)	A棟
記入者(管理者)	
氏名	土居 ひとみ
自己評価作成日	令和 3年 9月 1日

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から思いや要望を聞きケアプランを作成している				<p>事前に利用者から意見や要望を聞くほか、アセスメント情報をもとにしながら職員間で話し合い、積極的に意見やアイデアを出し合うことができています。職員間で話し合った情報を踏まえて、介護支援専門員が上手に取りまとめ、介護計画を作成している。また、利用者から出された意見などを取り入れ、反映された計画となるよう心がけている。さらに、家族にも意見や希望を聞くよう心がけている。</p>
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向やどう暮らしたいかを聞き、その人らしい生活ができるようケアプランを作成している	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	他の利用者と過ごせるようリビングに誘導している				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	連絡をとり協力してもらっている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録にケアプランをはさんで、いつでも確認できるようにしている			○	<p>事業所では会議等を活用して話し合い、職員は一人ひとりの介護計画の内容を把握している。また、一人ひとりの個別のファイリングを行い、日々のサービスの実施内容の記録時には、利用者一人ひとりの介護計画の内容を確認しながら記録をすることができる。さらに、利用者一人ひとりの発した言葉や様子などが丁寧に記録されている。</p>
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランにそって記録し気持ち等話し合い支援している			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に言語・行動など細かく記入している			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	会議で話し合い個別の記録をしている			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	月に一回見直しをしている			◎	<p>3か月に1回を目安として、介護計画の見直しをしている。月1回実施する会議では、利用者一人ひとりの現状を確認して、意見交換をするとともに、職員間で情報を共有している。また、急変時などの必要に応じて、介護計画の見直しをしている。</p>
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に一回見直しをし報告・確認を行っている			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に応じ、本人・家族と話し合って介護計画をしている			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回の会議を行っている。緊急の場合は申し送りなどで話し合っている			◎	<p>朝夕の申し送りを行うほか、月1回の会議を活用して、利用者の現状や支援内容等を検討するとともに、勉強会も実施している。事前に日程調整を行い、ほとんどの職員が会議に参加することができる。また、参加できない職員には会議録を確認してもらうほか、重要事項は口頭でも伝達をしている。</p>
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	担当者がケアプランを作成し意見交換している				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	全員参加できる日程にしている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の内容を記録し、後で確認してもらっている			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りや介護日誌を確認しサインをできるようにしている			◎	<p>日々の申し送り時を活用して伝達をしている。申し送りノートを兼ねた介護業務日誌を、職員は出勤時等に確認し、確認後には押印等を行い、確実な情報伝達につなげている。また、会議録も職員間に回覧するとともに、重要事項は口頭でも伝え、伝達漏れがないよう配慮されている。</p>
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	利用者の状態や重要事項など申し送りしている	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	できるだけ本人の希望を叶えられるよう支援している	/	/	/	職員は利用者の様子をよく観察しながら、できることを自由にしてもらえるよう支援している。また、事業所では利用者になりたいことを聞きながら、午前中に座ってできるレクリエーションを行うとともに、午後からは少し身体を動かしながら、少しでも利用者が楽しみのある生活を送れるよう取り組んでいる。さらに、利用者がレクリエーションなどを行いたくない場合には、職員から無理強いをせず、好きなことを利用者自身に選んでもらい、自由に過ごせるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクで何をしたいかや、お楽しみ献立日を作り、何が食べたいか意見を取り入れている	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の意思に沿って、自由に過ごせるよう見守っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりの生活ペースにあわせて支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人が出来る事、得意な事をしてもらい、楽しみをもてるようにしている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や全身の反応をみながら、思いを汲みとれるよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	会議で話をしている。問題がある場合は注意をしている	/	○	◎	人権や尊厳などを、会議を活用して勉強会や話し合いを行い、全ての職員は理解して、利用者一人ひとりのプライバシーを尊重したかかわりを実践している。訪問調査日には、耳の遠い利用者の耳元で、職員が工夫しながら声かけをする様子を見ることができた。また、居室への入室時には、職員から声かけをして、確認の上で入室をするとともに、不在時にも、事前に利用者に声をかけて、入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげない言葉かけや対応ができるよう心がけている	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	なるべく耳元で声掛けしプライバシーに注意している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は本人に声掛けし了解を得ている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会を行っている。電話などの問い合わせにも注意している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など毎日できる事を職員と一緒にしてもらい感謝の言葉も伝える	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、掃除など、利用者ができることを手伝ってくれた場合には、職員から感謝の言葉を伝えている。また、利用者同士の相性が合わないことがあるものの、言い合いなどのトラブルになりそうな場合には職員が早期に気づいて間に入ったり、事前に席の配席を考慮したりするなど、臨機応変に対応しながら、トラブルを未然に防ぐよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が係わり、支え合って生活できる援助を心がけている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	仲の良い利用者同士が近くで話ができるようにしている。孤立しそうな利用者や良好な関係が保てるよう援助する	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになりそうな時は、職員が入り声掛けをしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	聞き取り、記録し把握できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握できるよう記録をできるようにしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	外出時、馴染みの所をドライブするようになっている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ベランダで話をしてもらっている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ベランダに出たり、散歩に出たりする。外出は全員が参加できるようにしている	◎	△	◎	コロナ禍において、事業所では外出制限が設けられていたものの、県の感染警戒の緩和などの状況を見計らいながら、人混みを避けて、毎月全ての利用者が一緒に、車で様々な場所に出かけることができている。また、日常的に散歩や外気浴をすることもでき、利用者が気分転換を図れるよう努めている。さらに、最近ではコスモスの花の見学に出かけ、利用者と一緒に写真撮影をしながら楽しむこともできた。加えて、事業所には車いすの利用者が多いものの、他の利用者と同様に、一緒に外出することができる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	施設の職員で対応している				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	ベランダに出たり、車イスで散歩に出たりしている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	できるだけ希望に沿いたいが、対応できないことがある				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員で話し合っ、不安や混乱の予防、支援の工夫をしている				利用者自身でできることは、時間がかかっても自分でしてもらおう職員は配慮しており、しっかりと待つ介護や見守りを行うことができている。また、家事などの生活リハビリや体操を取り入れながら、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	バイタルチェックを行い、身体の状態把握をし、一連の動作が自分で出来るよう声掛けを行い介助している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようになっている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存能力を引き出し出来る事はなるべく本人にってもらおう声掛け見守りを行っている	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その人にとっての楽しみや役割をもてるように考えている				洗濯物干しやたみ、清掃などの家事を、日常的に職員は利用者と一緒に、役割を担ってもらうこともできている。以前は近隣の保育園児と交流することができていたものの、現在のコロナ禍において交流が休止になり、両ユニットでの合同のレクリエーションを増やししながら、少しでも利用者へ楽しみや張り合いのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々で出来る事、楽しみや役割をもてるように支援している	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	保育園交流やボランティアの方との係わりなどで、楽しみをもてるようにしている。現在、コロナで係わりができていない				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人が持っている衣類などのバランスを考えている				利用者一人ひとりの希望に合わせて、洋服を選びや、散髪などの整容をすることができている。また、家族と一緒に行きつけの美容室に出かけたり、訪問理容室を利用して髪型を整えるなど、おしゃれを楽しむことができている。さらに、常に職員は穏やかな雰囲気で、さりげなく衣類の乱れや食べこぼしなどをフローすることができている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	着慣れた服を用意してもらっている。本人の選択できるよう聞いている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人と話をしながら支援するようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節にあつた服を楽しめるよう援助している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	衣類の汚れがあれば、早めに着替えてもらい、他の汚れにも気を付けて、さりげなく声掛けするようにしている	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理容師に来てもらい、長さなど本人に確認してもらっている。パーマをかけたい人は連れて行くようにしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔を心がけている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者と共に食事を楽しんでいる				利用者のリクエストや旬の食材を取り入れながら、職員が献立を作成している。食材は業者に注文するとともに、足りない食材は、職員が近隣の店に買い出しに行っている。以前は、利用者と一緒に行きつけの店に行くこともできていたが、コロナ禍において控えている。ちらし寿司などが好きな利用者も多く、手作りの食事は利用者から好評で、大変喜ばれている。箸やコップなどは、入居時に持ってきてもらい、使い慣れた物を使用することができている。オープンキッチンで、利用者は調理の音や匂いを感じながら、その日のメニューを話したり、利用者が調理を手伝ったりすることもある。食事は、利用者の見守りや介助をしながら、可能な範囲で一緒に食べている。また、利用者の状態に応じて、刻みやトロミなどの食事形態に対応している。さらに、栄養士のアドバイスまでは受けることはできていないものの、職員間で食事のことを話し合うほか、医師から塩分などのアドバイスをもらうことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物に行く人、献立の案を出す人、後片付けの協力をする人、それぞれの状況で手伝ってもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	行事でおはぎ作りなどをしている。後片付けができる人はしてもらっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に家族や本人から聞いた内容を職員で共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節感のある食材を取り入れている。苦手なものがある人は別の物を作っている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の機能にあわせて調理を行い、キザミにしたり、水分はとろみをつけたりして提供している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅で使用していたものを持って来てもらっている。機能にあわせてものを使っている			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と一緒に食事をし見守りしている。状態にあわせて隣に座り声掛け介助している			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	料理の匂いを感じることができる	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分、食事を個別で記入し対応している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量が少ない時は、こまめに飲用してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	旬の野菜をとるようにし、お汁には具を多く入れるようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は魚、肉、野菜で分けている。毎日漂白剤使用している				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修に参加し学んでいる。会議で研修報告をし話し合っている	/	/	/	各居室に洗面台があり、毎食後に利用者は歯磨きをしている。介助が必要な利用者には、職員が付き添いながら、共用スペースにある洗面台で口腔ケアを行っている。介助の必要な利用者の口腔内の様子を確認することができているものの、利用者自身で自分の居室で歯磨きができている利用者の口腔内までは確認することができていないため、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認し、異常が見られた場合には、早期の歯科診療につなげられることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	指導は受けていないが、義歯の調整・相談はしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	声掛け、見守りしている。自分で出来ない人は介助している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来るところはしてもらい、磨き残しを職員が介助している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	状態の説明を家族にし、歯科医を受診、往診に来てもらっている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	事業所では、トイレでの排泄を基本として支援をしている。また、利用者の状態に合わせて、適切なパッドや紙パンツなどの排泄用品を職員間で話し合い、家族に確認のうえで使用している。さらに、尿もれがほとんどないものの、失敗の不安からパッドや紙パンツを使用している利用者もおり、思いに配慮しながら、安心感を優先することもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や研修に参加して理解できている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個別の排泄チェック表で把握できるようにしている	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。会議などで、見直し、話し合いをしている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握し、さりげなくトイレの声掛け誘導をしている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族と話し合いをし、種類や時間帯を決めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態にあわせて使用している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食べ物・飲み物を工夫している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の体調にあわせて入浴を行っている。入りたいと訴えがあれば、入れるようにしている。	◎	/	○	職員の勤務体制など、事業所である程度入浴できる時間帯や曜日を決めているものの、その都度、利用者の希望を確認しながら、臨機応変に対応をしている。また、浴槽またぎや湯船に浸かることが難しくなった利用者には、職員が2名体制で介助したり、足浴をしながらシャワー浴の対応もしている。さらに、利用者の希望に合わせて、用意した石けんなどの使い分けをするなど、個別対応にも応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	焦ることがないように、ゆっくりできるような心がけている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来るところは本人にしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	毎日声掛けを行ったり、今までの習慣や時間帯を考え誘導している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前は、バイタルチェックをし、入浴後は水分補給を行っている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	状態を記録し把握できるよう努めている				眠剤を服用している利用者もいるものの、事業所では、できる限り薬に頼らない支援に取り組んでいる。夜間に寝つけない利用者には、職員が寄り添いながら、一緒にお茶を飲んだり、会話をしたりするなどの対応している。また、日中の体操やレクリエーションなどの活動量を調整しながら、利用者が夜間に良眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間活動の誘導をしたり、話をしたり夜間良眠できるようにしている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中、体操やレクなど活動に参加してもらう。それでも眠れない場合は、医師に相談している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の希望や体調にあわせて自室で休めるようにしている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	毎月家族への手紙を書いてもらっている。手紙やはがきを書かれる方もいる				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	声掛け誘導にて毎月家族への手紙を書いてもらっている。手紙やはがきを書かれる方もいる				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	訴えがあれば、いつでも電話ができる				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡し、声掛けではがきを書かれる				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に理解、協力してもらっている。家族からも電話をもらっている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持できる方は、持っている。欲しい物を言われ購入している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日用品など買い物に出かけているが、お金を使うことは少ない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物に出かけると親切にもらっている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	能力に応じて所持してもらっている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族や本人と話し合いをしている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり帳を作成して、月に一回コピーを送付している。領収書も送付。面会時に家族に確認し、サインをもらっている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	病院受診が急に入ることがあるが、職員で対応している。	◎		◎	利用者の希望に合わせて、個別に買い物などに出かけられていたが、現在は感染症対策のため実施できていない。また、職員は可能な範囲で、利用者や家族の希望に柔軟な対応を心がけている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	網戸にしたり、花を置いていたりする	◎	○	○	玄関周辺は整理整頓され、季節感のある飾り付けを行うなど、家庭的な雰囲気となっている。また、正面玄関を入るとすぐに、両ユニットの入り口がある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	殺風景にならないように花を活けたり、写真を飾ったりしている	○	○	○	毎日、職員は利用者と一緒に事業所内の掃除を行い、明るいリビングなどの清潔が保たれている。日中には、利用者はリビングで過ごし、ソファやテーブルなど、思い思いの場所で快適に過ごすことができている。また、共用スペースには外出した時の写真を飾ったり、花を生けたりするなど、季節感が味わえるよう工夫されている。さらに、事業所には、「コロナ感染症対策マニュアル」があり、細目に消毒や換気を行うなど、感染対策を取りながら、快適な空間となるよう努めている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日気をつけている。換気している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を利用者と活けている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでみんなと過ごしたり、テーブルで過ごしたりできる				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	戸を開けたままにしない				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅ですべての物やほしい物を持って来てもらっている	◎		◎	居室には、自宅で使用していた馴染みの物を自由に持ち込むことができ、思い思いの空間づくりをしている。また、仏壇やテレビ、家族の写真などを持ってきている利用者も多い。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	玄関にイスを置いて、自分で靴が履けるようにしている			○	トイレの表示や居室のネームプレートなど、利用者が分かりやすいようにしている。現在は、事業所内で迷う利用者はいないものの、必要時には間違えないよう目印を付けるなどの工夫もしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレがわかりやすいように表示している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌やアルバムなどリビングに置き自由にみれるようにしている				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は鍵をかけないで自由に出入り出来るようにしている。外に出られる時は職員が付き添っている	◎	◎	◎	日常的に、事業所では玄関やユニットの出入り口の施錠はしていない。外へ出ようとする利用者には、職員が寄り添いながら、散歩などに出かけている。また、職員同士が声をかけ合うことで、安心安全に利用者を見守ることができている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	入所時に家族理解を得ている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関の戸が開くと音がなるようにしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時に聞き取り調査をおこなって職員で共有している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックを行い、異常の発見に努めている。異常時は記録をしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	週に一回、訪問看護師に相談し早めの対応に努めている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前に受診状況、希望をきいている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族の希望を大切に支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果は電話や面会時に報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時、家族や医療機関にスムーズな情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	面会し、その都度看護師、医師に経過を聞くようにし、場合によっては、家族をふくめカンファレンスを行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	毎月の受診で、必要時は相談などし関係作りをしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師に相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護師に相談できる体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	訪問看護師に来てもらい健康管理、変化に対応できるようにしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を介護記録につけて、いつでもみれるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	名前の確認、名前を呼び手渡し、服薬の確認をする				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	心身の変化の観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方が変わったら記録し、申し送りや伝え変化があれば記録し情報提供できるようにしている				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化があれば、家族に相談し支援内容を話し合っている	/	/	/	現在、事業所では看取り支援の実施はしていない。入居時に、家族等には対応可能な支援など、十分な説明を行っている。また、利用者が食事が摂れなくなった場合には、事業所での対応は困難と考え、家族や主治医を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、事業所に対応できなくなった場合には、職員は家族の相談に応じながら、病院や他施設への転院も支援している。さらに、身体的に重度化した利用者には、2人体制で入浴介助をするなど、事業所内で可能な限りの対応に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、医療機関と話し合って方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	相談しながら支援をしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に事務所の方針について、説明、理解を得るようにしている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関と連携をとっている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族との話し合いをしている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修参加し会議で報告している。内部研修も行っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修参加や会議での話し合いなど対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	研修参加し情報の共有とネットなどで知り得た情報を話し合う	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	市などから情報を得て予防策をしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関にマスク、消毒液を常備している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時や手紙で本人の様子を伝え、家族と一緒に考えている	/	/	/	現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けており、家族の来訪は激減している。事業所では、毎月事業所だよりを発行して、家族に事業所内の様子や行事などを伝えるとともに、毎月担当職員を中心に、利用者の状況を詳細に書いた手紙を送付している。事業所だより等を活用して、外出時やレクリエーションなどの様子を報告することはできているものの、職員の入退職がないため、利用者家族等アンケートの中にある、「職員等の異動、入・退職などについての報告」の理解が得られていない結果となっている。それほど問題のないアンケート結果と思われるものの、この部分の内容は、「事業所の運営上の事柄や出来事」などの把握となっているため、事業所だよりを活用して、定期的に今年1年間は職員の退職や異動がないことを掲載したり、コロナ禍の収束後には、家族会を再開して家族に直接伝えたりするなど、職員間で検討することも一つの方法である。また、コロナ禍以前は、家族に参加を呼びかけて、芋炊きなどを一緒に楽しむとともに、家族会などを活用して、家族同士の交流を図ることもできていた。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	一緒におやつをたべてもらい、ゆっくり話ができるようにしていたが、現在は、感染症対策のためベランダで話してもらう	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会を年2回行っていたが、現在コロナのため中止している	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月本人の様子を手紙で書いて送付している。広報紙を出して様子がわかるようにしている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	言いやすい雰囲気を心がけ、面会時に、それとなく思いや希望を聞いている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時話している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時やホームだよりで伝えている	x	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を年2回行っていたが、現在コロナのため中止している	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクに対し説明し対策を話し合うようにしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	面会時には声掛けをし、状態説明を行い意見が言いやすいようにしている。感染症対策のため面会ができないので、電話連絡をしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明し、理解、納得を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については、家族と話し合い同意、支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料の変更があれば、文書で連絡、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で説明している 現在、会議内容を文書で送付している	/	○	/	事業所周辺の散歩時に、近隣住民と挨拶を交わしている。コロナ禍以前は、踊りや歌などのボランティアの受け入れに協力したり、地域住民も参加できる「ひまわりカフェ(認知症カフェ)」を開催したりするなど、地域との交流を図ることもできていた。また、近隣にある保育園児との交流もできている。管理者は、早期の再開を望んでいる。現在のコロナ禍において、面会制限を設けていることもあり、地域住民の事業所への来訪はほとんどなく、交流できる機会も激減している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地方祭に参加するようにしている 現在、感染症対策のため参加見合わせている 散歩時、挨拶をしている	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	馴染みができている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェをして、気軽に遊びに来てもらうようにしていたが、現在、感染症対策のため中止している	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をかけあっている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方にきてもらっていた	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	美容室に行きたい利用者は行けるよう支援している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	美容室の方など協力してもらっている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした仕組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加してもらっていたが、現在は文書で送付し報告している	x	/	○	運営推進会議は、家族代表や民生委員、市議会議員、公民館長、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催をしている。現在のコロナ禍において、会議は書面開催となり、参加メンバーに会議報告を送付して、事業所の活動や利用者の様子等を伝えている。管理者は、「コロナ禍以前は家族や地域住民の参加があり、活発な意見交換が行われていたことから、早く元の形に戻したい」と考えている。今後は、会議の書面開催においても、参加メンバーに会議報告の送付のみに留まらず、可能な範囲で参加メンバーの自宅や職場を訪問して報告した際に、その場で意見を聞いたり、会議報告の送付時に意見を聞くアンケート様式を同封したりするなど、意見が得られるような工夫を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者全員の意見を聞いている。意見を今後の運営に生かせるようにしている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	現在は、文書で送付し報告している	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関のところに置いている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	会議の時に話し、理念に添ったケアができるよう取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先の見える所に掲示している。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画している	/	/	/	事業所内で、年間の研修計画を立てて、テーマを決めて毎月研修を実施するとともに、外部研修に計画的に参加することもできている。年間の研修目標を立てて取り組むなど、職員のスキルアップに努めている。また、日頃から職員は管理者等に相談しやすい体制が構築され、気軽に相談や意見を伝えることができる。また、必要に応じて管理者は、代表者に相談することもできている。さらに、管理者は働きやすい職場環境づくりに努め、有給休暇や希望休暇の取得を促すとともに、職員は穏やかに楽しく業務を行うことができ、近年離職した職員はいない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	個人の希望に添いスキルアップできるよう協力している	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の勤務状況など考え給与、賞与に反映している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との交流に取り組んでいる	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	一部の職員であるが、悩みなど相談にのっている	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	会議で勉強会をし理解を深めている	/	/	/	定期的に、虐待防止研修等を実施し、職員は理解を深めている。また、不適切な行為が見られた場合には、職員同士で声をかけ合うなどの対応をしている。現在は、不適切な職員の言動も見られず、落ち着いて支援をすることができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議で意見交換し話し合いをする	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉かけや態度などみているなかで話し合いをしている。申し送りや会議で話し合っている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気になることがあれば話を聞くようにしている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員が研修などで学び、具体的な内容について共通の認識を持っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者の行動を制限していないか会議で話し合う	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	具体的な対応を示し理解を得るようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会を行う				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば対応、支援する				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進会議の参加をしてもらっていた				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	会議で話し合いをしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書作成し、会議で防止対策を話し合う				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送り等で話し合っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった場合速やかに対応し、職員間で話し合うようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	対応策について話し合っている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して検討し、速やかに回答、サービスの改善、経過や結果を前向きに話し合い関係作りをしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	係わりのなかで気づきがあれば、話を聞き対応するようにしている			◎	事業所では、日頃から利用者や家族からの意見や要望を、細目に聞き取るよう心がけている。また、日々の生活の中で、利用者から意見を聞いているもの、ほとんど意見は出されない状況となっている。さらに、日頃から管理者等に、職員は何かあれば相談しやすい体制が構築され、月1回の会議や日々の業務の中で、意見を伝えることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情箱、用紙を用意設置している		◎	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	日頃よりコミュニケーションをとり、気になることがないか相談や声掛けをしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者が報告している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議で一人ひとり意見をきいている			◎	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	会議で話し合いをしている				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組むとともに、職員間で話し合いながら、管理者を中心に作成をしている。また、自己評価の作成は、職員の業務の振り返りや新たな気づきにもつながっている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議を活用して報告をしている。家族に事業所利用者家族等アンケートの結果から、家族に十分な評価の取組みの理解が得られていないことを窺うことができるため、コロナ禍の収束後には、家族会を活用して伝えたり、家族に取組み状況の確認などのモニターの協力を呼びかけたりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価をすることで職員が取り組み、意識レベルアップにつなげている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前向きに取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告している	×	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	会議で報告している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成して職員にも伝えている				定期的に、事業所では避難訓練を実施している。災害の発生時に備え、食料などの備蓄品も用意している。また、事業所は伊方原子力発電所の30km圏内に立地しているため、原子力避難訓練にも参加協力をするとともに、家族にも対応方法を説明している。今後のコロナ禍の収束後には、地域の防災訓練に参加協力をしたり、地域住民や家族に訓練への参加協力を呼びかけたり、運営推進会議等を活用して防災への取組みを話し合うなど、連携をより深めた協力体制が構築されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回いろんな想定で訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	できるだけ備蓄に努めている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防団との係わりをもち、連絡をしている。訓練参加の呼びかけをしている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	伊方発電所の災害想定で市の訓練に参加した				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症カフェを行っていたが、現在は感染症対策のため中止している				コロナ禍以前には、事業所として、「ひまわりカフェ(認知症カフェ)」を開催し、地域住民の参加協力を得ながら交流を図る機会になるとともに、相談に応じることもできていた。また、日常的にも地域住民から相談があった場合には、快く対応をしている。さらに、事業所として、市行政や地域包括支援センター等との連携や協力をすることもできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方の相談があり話している		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	認知症カフェを行っていたが、現在は感染症対策のため中止している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れに協力するようにしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の行事に参加していた			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3年 10月 28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3873800373
事業所名 (ユニット名)	グループホーム宇和ひまわり B棟
記入者(管理者) 氏名	土居 ひとみ
自己評価作成日	令和 3年 9月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>笑顔ある生活</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○グループホーム内の状況が分かりにくいいため、広報ひまわりだよりでコメントを入れるようにした。運営推進会議が感染症対策のため中止のため会議が開けていないため、思うように意見が聞けていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所の周辺には民家や畑が多く、静かな環境となっている。コロナ禍において、外出できる機会は減っているものの、事業所では人混みの多い場所への外出は控えて感染対策を取りながら、定期的にドライブをしたり、事業所周辺を散歩したり、利用者が楽しみにしている季節に応じて花見に出かけるなど、利用者の気分転換を図ることができている。訪問調査の先日も、全ての利用者が一緒にコスモスの花の見学に出かけ、記念撮影をした様子の写真が共用スペースに飾られていた。また、職員が毎食手作りの食事を提供しており、利用者のリクエストや旬の食材を取り入れた調理は利用者により好評で、大変喜ばれている。さらに、事業所内には利用者や職員の笑顔が溢れ、訪問調査日にも利用者の笑い声が多く聞こえてくるなど、穏やかな雰囲気の中で楽しみのある生活を送る様子を窺うことができた。加えて、管理者と職員は話しやすい良好な関係が構築され、気軽に意見や相談に応じるとともに、有給休暇や希望休暇の取得などの働きやすい職場環境づくりに努め、職員は穏やかに楽しく業務ができ、近年離職した職員はいない。</p>
------------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人に聞いたり、家族から情報を聞いたり職員で共有している	○	/	○	入居前に、職員は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞いています。また、日々の生活の中でも、利用者から意向などの情報の把握に努めている。さらに、上手く思いを伝えられない利用者には、表情やしぐさを観察しながら思いを汲み取り、より良い支援に努めている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や仕草などをみて検討している	/	/	/	/		
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族、知人から話をきいて職員間で話し合いをしている	/	/	/	/		
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個別の暮らしの状況用紙に記録し全員が把握できるようにしている	/	/	/	/		
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	意思疎通困難な方がおられるが、思い込みにならないよう職員で話し合いをしている	/	/	/	/		
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に本人・家族から情報を聞き取り記録している	/	/	○	入居前に、アセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や暮らしの現状などの聞き取りをしている。以前に利用していた介護サービス事業所の担当者や介護支援専門員、関係者からも、情報を聞いている。さらに、日々のかかわりの中で、利用者から若い頃の話を聞かせてもらうこともある。加えて、把握した情報は暮らし情報シートや介護記録などに記載し、申し送り等を活用して職員間で共有している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	定期的にアセスメントを行い、現状の把握に努めている	/	/	/	/		
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録に状態の変化を記録し、把握できるようにしている	/	/	/	/		
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	会議や申し送りで話し合っている	/	/	/	/		
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録に暮らしの様子を記録している	/	/	/	/		
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の行動・話などにより、職員間で意見交換をし必要な支援を考えている	/	/	◎	事前に把握した情報は、市独自の医療・介護連携シートや暮らし情報シートなどを活用して取りまとめをしている。また、月1回実施する会議を活用して、職員間で情報共有するとともに、より良いサービスを検討している。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	申し送りや会議で話し合っている	/	/	/	/		
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	アセスメントシートを活用し課題を明らかにする	/	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から思いや要望を聞きケアプランを作成している	/	/	/	事前に利用者から意見や要望を聞くほか、アセスメント情報をもとにしながら職員間で話し合い、積極的に意見やアイデアを出し合うことができています。職員間で話し合った情報を踏まえて、介護支援専門員が上手に取りまとめ、介護計画を作成している。また、利用者から出された意見などを取り入れ、反映された計画となるよう心がけている。さらに、家族にも意見や希望を聞くよう心がけている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向やどう暮らしたいかを聞き、その人らしい生活ができるようケアプランを作成している	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	他の利用者と過ごせるようリビングに誘導している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	連絡をとり協力してもらっている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録にケアプランをはさんで、いつでも確認できるようにしている	/	/	○	事業所では会議等を活用して話し合い、職員は一人ひとりの介護計画の内容を把握している。また、一人ひとりの個別のファイリングを行い、日々のサービスの実施内容の記録時には、利用者一人ひとりの介護計画の内容を確認しながら記録をすることができる。さらに、利用者一人ひとりの発した言葉や様子などが丁寧に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランにそって記録し気づき等話し合い支援している	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に言語・行動など細かく記入している	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	会議で話し合い個別の記録をしている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	月に一回見直しをしている	/	/	◎	3か月に1回を目安として、介護計画の見直しをしている。月1回実施する会議では、利用者一人ひとりの現状を確認して、意見交換をするとともに、職員間で情報を共有している。また、急変時などの必要に応じて、介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に一回見直しをし報告・確認を行っている	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に応じ、本人・家族と話し合って介護計画をしている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回の会議を行っている。緊急の場合は申し送りなどで話し合っている	/	/	◎	朝夕の申し送りを行うほか、月1回の会議を活用して、利用者の現状や支援内容等を検討するとともに、勉強会も実施している。事前に日程調整を行い、ほとんどの職員が会議に参加することができる。また、参加できない職員には会議録を確認してもらうほか、重要事項は口頭でも伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	担当者がケアプランを作成し意見交換している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	全員参加できる日程にしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の内容を記録し、後で確認してもらっている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りや介護日誌を確認しサインをできるようにしている	/	/	◎	日々の申し送り時を活用して伝達をしている。申し送りノートを兼ねた介護業務日誌を、職員は出勤時等に確認し、確認後には押印等を行い、確実な情報伝達につなげている。また、会議録も職員間に回覧するとともに、重要事項は口頭でも伝え、伝達漏れがないよう配慮されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	利用者の状態や重要事項など申し送りしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	できるだけ本人の希望を叶えられるよう支援している	/	/	/	職員は利用者の様子をよく観察しながら、できることを自由にしてもらえるよう支援している。また、事業所では利用者にしてほしいことを聞きながら、午前中に座ってできるレクリエーションを行うとともに、午後からは少し身体を動かしながら、少しでも利用者が楽しみのある生活を送れるよう取り組んでいる。さらに、利用者がレクリエーションなどを行いたくない場合には、職員から無理強いをせず、好きなことを利用者自身に選んでもらい、自由に過ごせるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクで何をしたいかや、お楽しみ献立日を作り、何が食べたいか意見を取り入れている	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の意思に沿って、自由に過ごせるよう見守っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりの生活ペースにあわせて支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人が出来る事、得意な事をしてもらい、楽しみをもてるようにしている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や全身の反応をみながら、思いを汲みとれるよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	会議で話をしている。問題がある場合は注意をしている	/	○	◎	人権や尊厳などを、会議を活用して勉強会や話し合いを行い、全ての職員は理解して、利用者一人ひとりのプライバシーを尊重したかかわりを実践している。訪問調査日には、耳の遠い利用者の耳元で、職員が工夫しながら声かけをする様子を見ることができた。また、居室への入室時には、職員から声かけをして、確認の上で入室をするとともに、不在時にも、事前に利用者に声をかけて、入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげない言葉かけや対応ができるよう心がけている	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	なるべく耳元で声掛けしプライバシーに注意している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は本人に声掛けし了解を得ている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会を行っている。電話などの問い合わせにも注意している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など毎日できる事を職員と一緒にしてもらい感謝の言葉も伝える	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、掃除など、利用者ができることを手伝ってくれた場合には、職員から感謝の言葉を伝えている。また、利用者同士の相性が合わないことがあるものの、言い合いなどのトラブルになりそうな場合には職員が早期に気づいて間に入ったり、事前に席の配席を考慮したりするなど、臨機応変に対応しながら、トラブルを未然に防ぐよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が係わり、支え合って生活できる援助を心がけている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	仲の良い利用者同士が近くで話ができるようにしている。孤立しそうな利用者や良好な関係が保てるよう援助する	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになりそうな時は、職員が入り声掛けをしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	聞き取り、記録し把握できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握できるよう記録をできるようにしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	外出時、馴染みの所をドライブするようになっている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ベランダで話をしてもらっている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ベランダに出たり、散歩に出たりする。外出は全員が参加できるようにしている	◎	△	◎	コロナ禍において、事業所では外出制限が設けられていたものの、県の感染警戒の緩和などの状況を見計らいながら、人混みを避けて、毎月全ての利用者が一緒に、車で様々な場所に出かけることができている。また、日常的に散歩や外気浴をすることもでき、利用者が気分転換を図れるよう努めている。さらに、最近ではコスモスの花の見学に出かけ、利用者と一緒に写真撮影をしながら楽しむこともできた。加えて、事業所には車いすの利用者が多いものの、他の利用者と同様に、一緒に外出することができる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	施設の職員で対応している				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	ベランダに出たり、車イスで散歩に出たりしている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	できるだけ希望に沿いたいが、対応できないことがある				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員で話し合っ、不安や混乱の予防、支援の工夫をしている				利用者自身でできることは、時間がかかっても自分でしてもらおう職員は配慮しており、しっかりと待つ介護や見守りを行うことができている。また、家事などの生活リハビリや体操を取り入れながら、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	バイタルチェックを行い、身体の状態把握をし、一連の動作が自分で出来るよう声掛けを行い介助している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようになっている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存能力を引き出し出来る事はなるべく本人にってもらおう声掛け見守りを行っている	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その人にとっての楽しみや役割をもてるように考えている				洗濯物干しやたみ、清掃などの家事を、日常的に職員は利用者と一緒に、役割を担ってもらうこともできている。以前は近隣の保育園児と交流することができていたものの、現在のコロナ禍において交流が休止になり、両ユニットでの合同のレクリエーションを増やししながら、少しでも利用者へ楽しみや張り合いのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々で出来る事、楽しみや役割をもてるように支援している	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	保育園交流やボランティアの方との係わりなどで、楽しみをもてるようにしている。現在、コロナで係わりができていない				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人が持っている衣類などのバランスを考えている				利用者一人ひとりの希望に合わせて、洋服を選びや、散髪などの整容をすることができている。また、家族と一緒に行きつけの美容室に出かけたり、訪問理容室を利用して髪型を整えるなど、おしゃれを楽しむことができている。さらに、常に職員は穏やかな雰囲気で、さりげなく衣類の乱れや食べこぼしなどをフローすることができている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	着慣れた服を用意してもらっている。本人の選択できるよう聞いている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人と話をしながら支援するようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節にあつた服を楽しめるよう援助している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	衣類の汚れがあれば、早めに着替えてもらい、他の汚れにも気を付けて、さりげなく声掛けするようにしている	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理容師に来てもらい、長さなど本人に確認してもらっている。パーマをかけたい人は連れて行くようにしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔を心がけている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者と共に食事を楽しんでいる				利用者のリクエストや旬の食材を取り入れながら、職員が献立を作成している。食材は業者に注文するとともに、足りない食材は、職員が近隣の店に買い出しに行っている。以前は、利用者と一緒に買い物に行くこともできていたが、コロナ禍において控えている。ちらし寿司などが好きな利用者も多く、手作りの食事は利用者に好評で、大変喜ばれている。箸やコップなどは、入居時に持ってきてもらい、使い慣れた物を使用することができている。オープンキッチンで、利用者は調理の音や匂いを感じながら、その日のメニューを話したり、利用者が調理を手伝ったりすることもある。食事は、利用者の見守りや介助をしながら、可能な範囲で一緒に食べている。また、利用者の状態に応じて、刻みやトロミなどの食事形態に対応している。さらに、栄養士のアドバイスまでは受けることはできていないものの、職員間で食事のことを話し合うほか、医師から塩分などのアドバイスをもらうことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物に行く人、献立の案を出す人、後片付けの協力をする人、それぞれの状況で手伝ってもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	行事でおはぎ作りなどをしている。後片付けができる人はしてもらっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に家族や本人から聞いた内容を職員で共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節感のある食材を取り入れている。苦手なものがある人は別の物を作っている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の機能にあわせて調理を行い、キザミにしたり、水分はとろみをつけたりして提供している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅で使用していたものを持って来てもらっている。機能にあわせてものを使っている			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と一緒に食事をし見守りしている。状態にあわせて隣に座り声掛け介助している			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	料理の匂いを感じることができる	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分、食事を個別で記入し対応している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量が少ない時は、こまめに飲用してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	旬の野菜をとるようにし、お汁には具を多く入れるようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は魚、肉、野菜で分けている。毎日漂白剤使用している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修に参加し学んでいる。会議で研修報告をし話し合っている				各居室に洗面台があり、毎食後に利用者は歯磨きをしている。介助が必要な利用者には、職員が付き添いながら、共用スペースにある洗面台で口腔ケアを行っている。介助の必要な利用者の口腔内の様子を確認することができているものの、利用者自身で自分の居室で歯磨きができている利用者の口腔内までは確認することができていないため、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認し、異常が見られた場合には、早期の歯科診療につなげられることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	指導は受けていないが、義歯の調整・相談はしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	声掛け、見守りしている。自分で出来ない人は介助している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来るところはしてもらい、磨き残しを職員が介助している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	状態の説明を家族にし、歯科医を受診、往診に来てもらっている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	会議で話し合いをしている				事業所では、トイレでの排泄を基本として支援をしている。また、利用者の状態に合わせて、適切なパッドや紙パンツなどの排泄用品を職員間で話し合い、家族に確認のうえで使用している。さらに、尿もれがほとんどないものの、失敗の不安からパッドや紙パンツを使用している利用者もあり、思いに配慮しながら、安心感を優先することもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や研修に参加して理解できている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個別の排泄チェック表で把握できるようにしている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。会議などで、見直し、話し合いをしている	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	会議で話し合いをしている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握し、さりげなくトイレの声掛け誘導をしている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族と話し合いをし、種類や時間帯を決めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態にあわせて使用している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食べ物・飲み物を工夫している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の体調にあわせて入浴を行っている。入りたいと訴えがあれば、入れるようにしている。	◎		○	職員の勤務体制など、事業所である程度入浴できる時間帯や曜日を決めているものの、その都度、利用者の希望を確認しながら、臨機応変に対応をしている。また、浴槽またぎや湯船に浸かることが難しくなった利用者には、職員が2名体制で介助したり、足浴をしながらシャワー浴の対応もしている。さらに、利用者の希望に合わせて、用意した石けんなどの使い分けをするなど、個別対応にも応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	焦ることがないように、ゆっくりできるような心がけている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来るところは本人にしてもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	毎日声掛けを行ったり、今までの習慣や時間帯を考え誘導している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前は、バイタルチェックをし、入浴後は水分補給を行っている				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	状態を記録し把握できるよう努めている				眠剤を服用している利用者もいるものの、事業所では、できる限り薬に頼らない支援に取り組んでいる。夜間に寝つけない利用者には、職員が寄り添いながら、一緒にお茶を飲んだり、会話をしたりするなどの対応している。また、日中の体操やレクリエーションなどの活動量を調整しながら、利用者が夜間に良眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間活動の誘導をしたり、話をしたり夜間良眠できるようにしている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中、体操やレクなど活動に参加してもらう。それでも眠れない場合は、医師に相談している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の希望や体調にあわせて自室で休めるようにしている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	毎月家族への手紙を書いてもらっている。手紙やはがきを書かれる方もいる				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	声掛け誘導にて毎月家族への手紙を書いてもらっている。手紙やはがきを書かれる方もいる				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	訴えがあれば、いつでも電話ができる				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡し、声掛けではがきを書かれる				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に理解、協力してもらっている。家族からも電話をもらっている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持できる方は、持っている。欲しい物を言われ購入している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日用品など買い物に出かけているが、お金を使うことは少ない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物に出かけると親切にもらっている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	能力に応じて所持してもらっている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族や本人と話し合いをしている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり帳を作成して、月に一回コピーを送付している。領収書も送付。面会時に家族に確認し、サインをもらっている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	病院受診が急に入ることがあるが、職員で対応している。	◎		◎	利用者の希望に合わせて、個別に買い物などに出かけられていたが、現在は感染症対策のため実施できていない。また、職員は可能な範囲で、利用者や家族の希望に柔軟な対応を心がけている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	網戸にしたり、花を置いていたりする	◎	○	○	玄関周辺は整理整頓され、季節感のある飾り付けを行うなど、家庭的な雰囲気となっている。また、正面玄関を入るとすぐに、両ユニットの入り口がある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	殺風景にならないように花を活けたり、写真を飾ったりしている	○	○	○	毎日、職員は利用者と一緒に事業所内の掃除を行い、明るいリビングなどの清潔が保たれている。日中には、利用者はリビングで過ごし、ソファやテーブルなど、思い思いの場所で快適に過ごすことができている。また、共用スペースには外出した時の写真を飾ったり、花を生けたりするなど、季節感が味わえるよう工夫されている。さらに、事業所には、「コロナ感染症対策マニュアル」があり、細目に消毒や換気を行うなど、感染対策を取りながら、快適な空間となるよう努めている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日気をつけている。換気している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を利用者と活けている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでみんなと過ごしたり、テーブルで過ごしたりできる				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	戸を開けたままにしない				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使っていた物やほしい物を持って来てもらっている	◎		◎	居室には、自宅で使用していた馴染みの物を自由に持ち込むことができ、思い思いの空間づくりをしている。また、仏壇やテレビ、家族の写真などを持ってきている利用者も多い。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	玄関にイスを置いて、自分で靴が履けるようにしている			○	トイレの表示や居室のネームプレートなど、利用者が分かりやすいようにしている。現在は、事業所内で迷う利用者はいないものの、必要時には間違えないよう目印を付けるなどの工夫もしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレがわかりやすいように表示している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌やアルバムなどリビングに置き自由にみれるようにしている				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は鍵をかけないで自由に出入り出来るようにしている。外に出られる時は職員が付き添っている	◎	◎	◎	日常的に、事業所では玄関やユニットの出入り口の施錠はしていない。外へ出ようとする利用者には、職員が寄り添いながら、散歩などに出かけている。また、職員同士が声をかけ合うことで、安心安全に利用者を見守ることができている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時に家族理解を得ている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関の戸が開くと音がなるようにしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時に聞き取り調査をおこなって職員で共有している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックを行い、異常の発見に努めている。異常時は記録をしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	週に一回、訪問看護師に相談し早めの対応に努めている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前に受診状況、希望をきいている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族の希望を大切に支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果は電話や面会時に報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時、家族や医療機関にスムーズな情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	面会し、その都度看護師、医師に経過を聞くようにし、場合によっては、家族をふくめカンファレンスを行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	毎月の受診で、必要時は相談などし関係作りをしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師に相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護師に相談できる体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	訪問看護師に来てもらい健康管理、変化に対応できるようにしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を介護記録につけて、いつでもみれるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	名前の確認、名前を呼び手渡し、服薬の確認をする				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	心身の変化の観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方が変わったら記録し、申し送りや伝え変化があれば記録し情報提供できるようにしている				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化があれば、家族に相談し支援内容を話し合っている	/	/	/	現在、事業所では看取り支援の実施はしていない。入居時に、家族等には対応可能な支援など、十分な説明を行っている。また、利用者が食事が摂れなくなった場合には、事業所での対応は困難と考え、家族や主治医を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、事業所に対応できなかった場合には、職員は家族の相談に応じながら、病院や他施設への転院も支援している。さらに、身体的に重度化した利用者には、2人体制で入浴介助をするなど、事業所内で可能な限りの対応に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、医療機関と話し合って方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	相談しながら支援をしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に事務所の方針について、説明、理解を得るようにしている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関と連携をとっている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族との話し合いをしている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修参加し会議で報告している。内部研修も行っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修参加や会議での話し合いなど対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	研修参加し情報の共有とネットなどで知り得た情報を話し合う	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	市などから情報を得て予防策をしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関にマスク、消毒液を常備している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時や手紙で本人の様子を伝え、家族と一緒に考えている				現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けており、家族の来訪は激減している。事業所では、毎月事業所だよりを発行して、家族に事業所内の様子や行事などを伝えるとともに、毎月担当職員を中心に、利用者の状況を詳細に書いた手紙を送付している。事業所だより等を活用して、外出時やレクリエーションなどの様子を報告することはできているものの、職員の入退職がないため、利用者家族等アンケートの中にある、「職員等の異動、入・退職などについての報告」の理解が得られていない結果となっている。それほど問題のないアンケート結果と思われるものの、この部分の内容は、「事業所の運営上の事柄や出来事」などの把握となっているため、事業所だよりを活用して、定期的に今年1年間は職員の退職や異動がないことを掲載したり、コロナ禍の収束後には、家族会を再開して家族に直接伝えたりするなど、職員間で検討することも一つの方法である。また、コロナ禍以前は、家族に参加を呼びかけて、芋炊きなどを一緒に楽しむとともに、家族会などを活用して、家族同士の交流を図ることもできていた。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	一緒におやつをたべてもらい、ゆっくり話ができるようにしていたが、現在は、感染症対策のためベランダで話してもらう				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会を年2回行っていたが、現在コロナのため中止している	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月本人の様子を手紙で書いて送付している。広報誌を出して様子がわかるようにしている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	言いやすい雰囲気を心がけ、面会時に、それとなく思いや希望を聞いている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時話している				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時やホームだよりで伝えている	x		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を年2回行っていたが、現在コロナのため中止している				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクに対し説明し対策を話し合うようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	面会時には声掛けをし、状態説明を行い意見が言いやすいようにしている。感染症対策のため面会ができないので、電話連絡をしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明し、理解、納得を得ている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については、家族と話し合い同意、支援している				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料の変更があれば、文書で連絡、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で説明している 現在、会議内容を文書で送付している	/	○	/	事業所周辺の散歩時に、近隣住民と挨拶を交わしている。コロナ禍以前は、踊りや歌などのボランティアの受け入れに協力したり、地域住民も参加できる「ひまわりカフェ(認知症カフェ)」を開催したりするなど、地域との交流を図ることもできていた。また、近隣にある保育園児との交流もできている。管理者は、早期の再開を望んでいる。現在のコロナ禍において、面会制限を設けていることもあり、地域住民の事業所への来訪はほとんどなく、交流できる機会も激減している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地方祭に参加するようにしている 現在、感染症対策のため参加見合わせている 散歩時、挨拶をしている	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	馴染みができている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェをして、気軽に遊びに来てもらうようにしていたが、現在、感染症対策のため中止している	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をかけあっている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方にきてもらっていた	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	美容室に行きたい利用者は行けるよう支援している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	美容室の方など協力してもらっている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした仕組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加してもらっていたが、現在は文書で送付し報告している	x	/	○	運営推進会議は、家族代表や民生委員、市議会議員、公民館長、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催をしている。現在のコロナ禍において、会議は書面開催となり、参加メンバーに会議報告を送付して、事業所の活動や利用者の様子等を伝えている。管理者は、「コロナ禍以前は家族や地域住民の参加があり、活発な意見交換が行われていたことから、早く元の形に戻したい」と考えている。今後は、会議の書面開催においても、参加メンバーに会議報告の送付のみに留まらず、可能な範囲で参加メンバーの自宅や職場を訪問して報告した際に、その場で意見を聞いたり、会議報告の送付時に意見を聞くアンケート様式を同封したりするなど、意見が得られるような工夫を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者全員の意見を聞いている。意見を今後の運営に生かせるようにしている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	現在は、文書で送付し報告している	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関のところに置いている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	会議の時に話し、理念に添ったケアができるよう取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先の見える所に掲示している。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画している	/	/	/	事業所内で、年間の研修計画を立てて、テーマを決めて毎月研修を実施するとともに、外部研修に計画的に参加することもできている。年間の研修目標を立てて取り組むなど、職員のスキルアップに努めている。また、日頃から職員は管理者等に相談しやすい体制が構築され、気軽に相談や意見を伝えることができる。また、必要に応じて管理者は、代表者に相談することもできている。さらに、管理者は働きやすい職場環境づくりに努め、有給休暇や希望休暇の取得を促すとともに、職員は穏やかに楽しく業務を行うことができ、近年離職した職員はいない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	個人の希望に添いスキルアップできるよう協力している	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の勤務状況など考え給与、賞与に反映している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との交流に取り組んでいる	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	一部の職員であるが、悩みなど相談にのっている	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	会議で勉強会をし理解を深めている	/	/	/	定期的に、虐待防止研修等を実施し、職員は理解を深めている。また、不適切な行為が見られた場合には、職員同士で声をかけ合うなどの対応をしている。現在は、不適切な職員の言動も見られず、落ち着いて支援をすることができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議で意見交換し話し合いをする	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉かけや態度などみているなかで話し合いをしている。申し送りや会議で話し合っている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気になることがあれば話を聞くようにしている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員が研修などで学び、具体的な内容について共通の認識を持っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者の行動を制限していないか会議で話し合う	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	具体的な対応を示し理解を得るようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会を行う				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば対応、支援する				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進会議の参加をしてもらっていた				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	会議で話し合いをしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書作成し、会議で防止対策を話し合う				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送り等で話し合っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった場合速やかに対応し、職員間で話し合うようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	対応策について話し合っている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して検討し、速やかに回答、サービスの改善、経過や結果を前向きに話し合い関係作りをしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	係わりのなかで気づきがあれば、話を聞き対応するようにしている			◎	事業所では、日頃から利用者や家族からの意見や要望を、細目に聞き取るよう心がけている。また、日々の生活の中で、利用者から意見を聞いているもの、ほとんど意見は出されない状況となっている。さらに、日頃から管理者等に、職員は何かあれば相談しやすい体制が構築され、月1回の会議や日々の業務の中で、意見を伝えることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情箱、用紙を用意設置している		◎	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	日頃よりコミュニケーションをとり、気になることがないか相談や声掛けをしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者が報告している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議で一人ひとり意見をきいている			◎	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員全員で取り組むとともに、職員間で話し合いながら、管理者を中心に作成をしている。また、自己評価の作成は、職員の業務の振り返りや新たな気づきにもつながっている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議を活用して報告をしている。家族に事業所利用者家族等アンケートの結果から、家族に十分な評価の取組みの理解が得られていないことを窺うことができるため、コロナ禍の収束後には、家族会を活用して伝えたり、家族に取組み状況の確認などのモニターの協力を呼びかけたりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価をすることで職員が取り組み、意識レベルアップにつなげている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前向きに取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告している	×	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	会議で報告している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成して職員にも伝えている	/	/	/	定期的に、事業所では避難訓練を実施している。災害の発生時に備え、食料などの備蓄品も用意している。また、事業所は伊方原子力発電所の30km圏内に立地しているため、原子力避難訓練にも参加協力するとともに、家族にも対応方法等を説明している。今後のコロナ禍の収束後には、地域の防災訓練に参加協力したり、地域住民や家族に訓練への参加協力を呼びかけたり、運営推進会議等を活用して防災への取組みを話し合うなど、連携をより深めた協力体制が構築されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回いろんな想定で訓練を行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	できるだけ備蓄に努めている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防団との係わりをもち、連絡をしている。訓練参加の呼びかけをしている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	伊方発電所の災害想定で市の訓練に参加した	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症カフェを行っていたが、現在は感染症対策のため中止している	/	/	/	コロナ禍以前には、事業所として、「ひまわりカフェ(認知症カフェ)」を開催し、地域住民の参加協力を得ながら交流を図る機会になるとともに、相談に応じることもできていた。また、日常的にも地域住民から相談があった場合には、快く対応をしている。さらに、事業所として、市行政や地域包括支援センター等との連携や協力をすることもできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方の相談があり話している	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	認知症カフェを行っていたが、現在は感染症対策のため中止している	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れに協力するようにしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の行事に参加していた	/	/	○	